

令和2年2月20日（木）

第3回気候変動適応九州・沖縄広域協議会

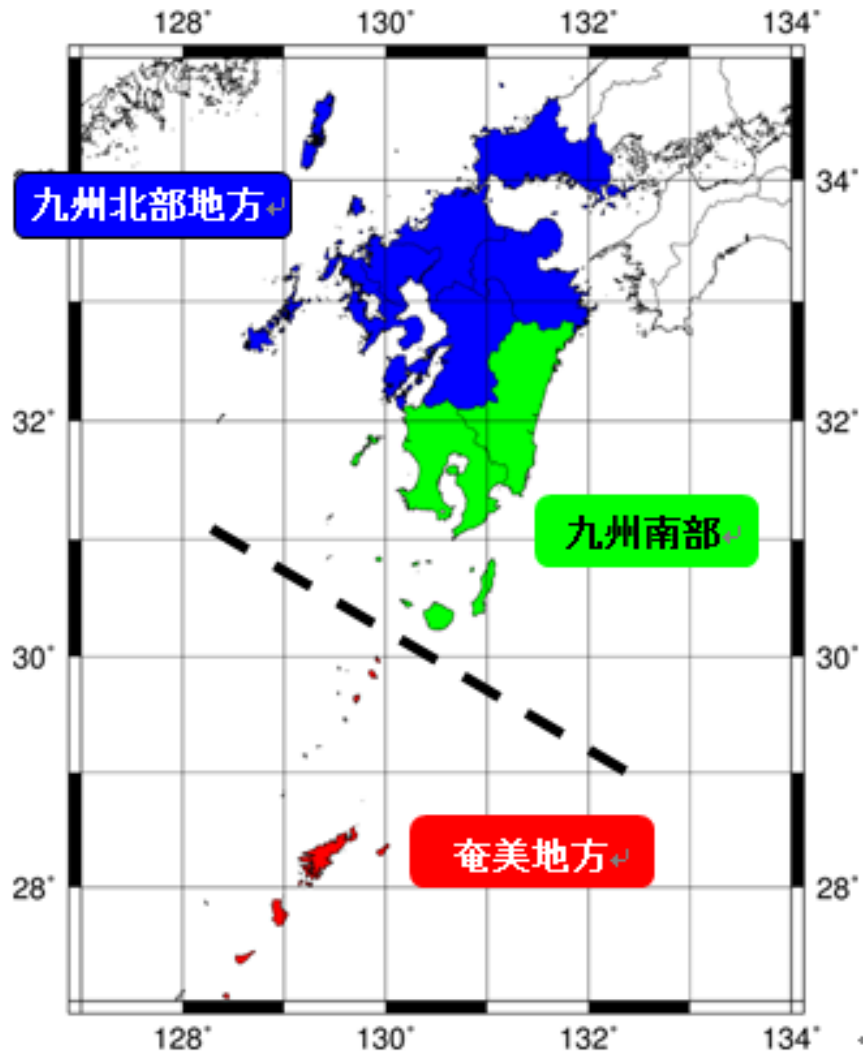
2019年の天候について

福岡管区気象台気象防災部

地球環境・海洋課

地球温暖化情報官 風間千尋

気象庁における「九州」の地域区分

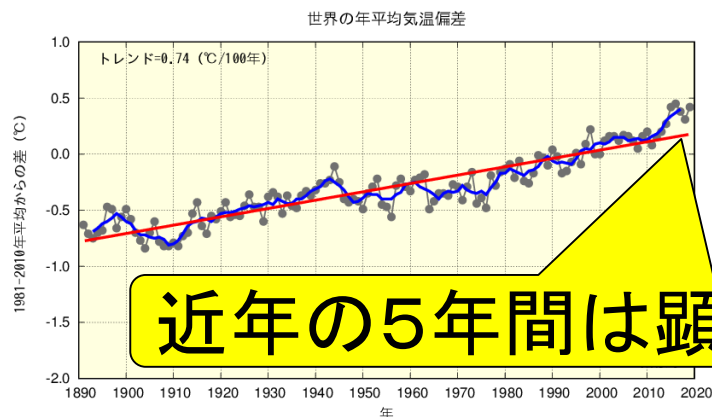


- 「九州南部」に属する鹿児島県は、鹿児島県の本土と種子島、屋久島
- 「奄美地方」は、奄美群島とトカラ列島

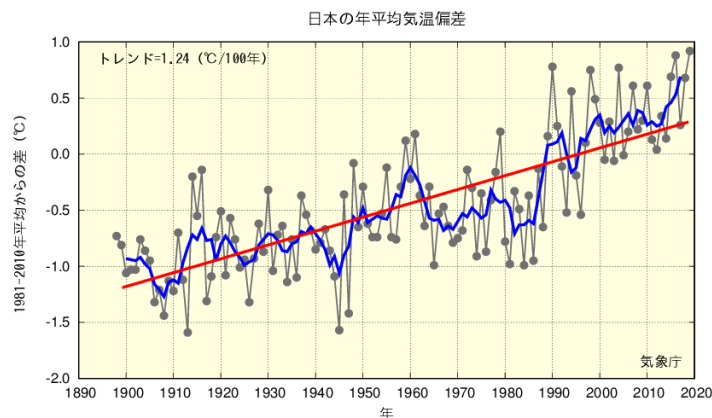
2019年の天候のトピックス

- 世界の年平均気温は統計開始(1891年)以降、2番目の高温。日本では統計開始(1898年)以降、最も高温。
- 九州北部地方、九州南部、奄美地方、沖縄地方の冬(2018年12月～2019年2月)は、統計開始(1947年)以降、最も高温。
- 九州北部地方の梅雨入りが統計開始(1951年)以降、最も遅い。沖縄地方の梅雨明けが統計開始(1951年)以降、最も遅い。

世界、日本の年平均気温は上昇



統計期間: 1891~2019年

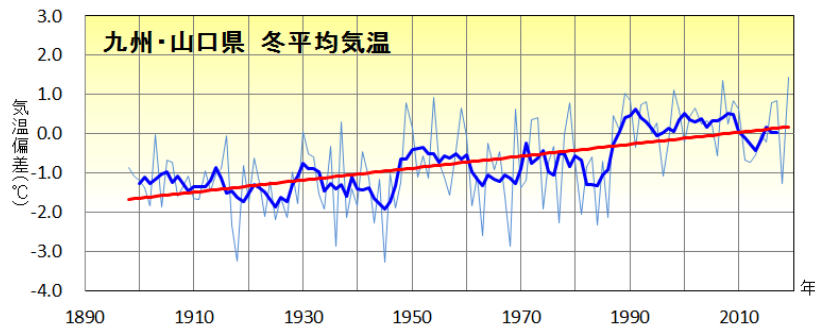


統計期間: 1898~2019年

- 世界の年平均気温は、100年あたり0.74°Cの割合で上昇（地球温暖化の影響+エルニーニョ現象等の影響）

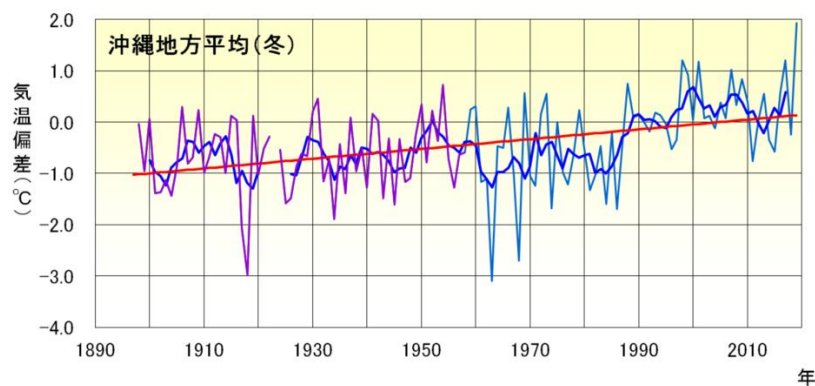
- 日本（国内15地点平均）の年平均気温は、100年あたり1.24°Cの割合で上昇

九州、沖縄の冬平均気温は上昇



統計期間: 1898～2019年

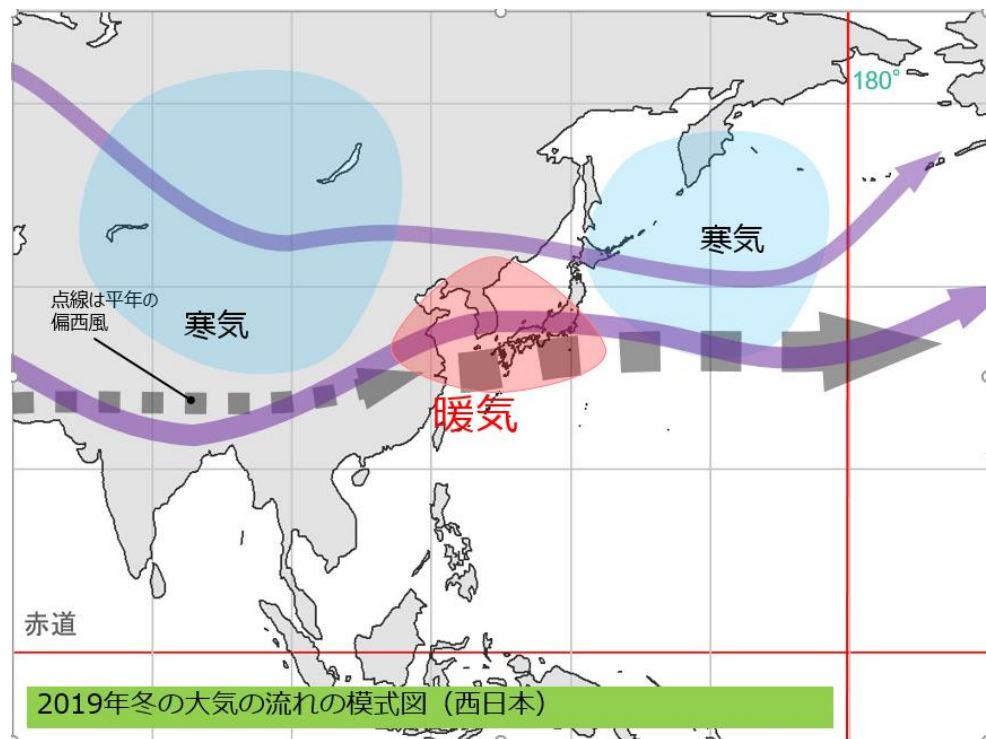
- 九州・山口県の冬平均気温は、100年あたり 1.52°C の割合で上昇



統計期間: 1898～2019年

- 沖縄地方の冬平均気温は、100年あたり 0.95°C の割合で上昇

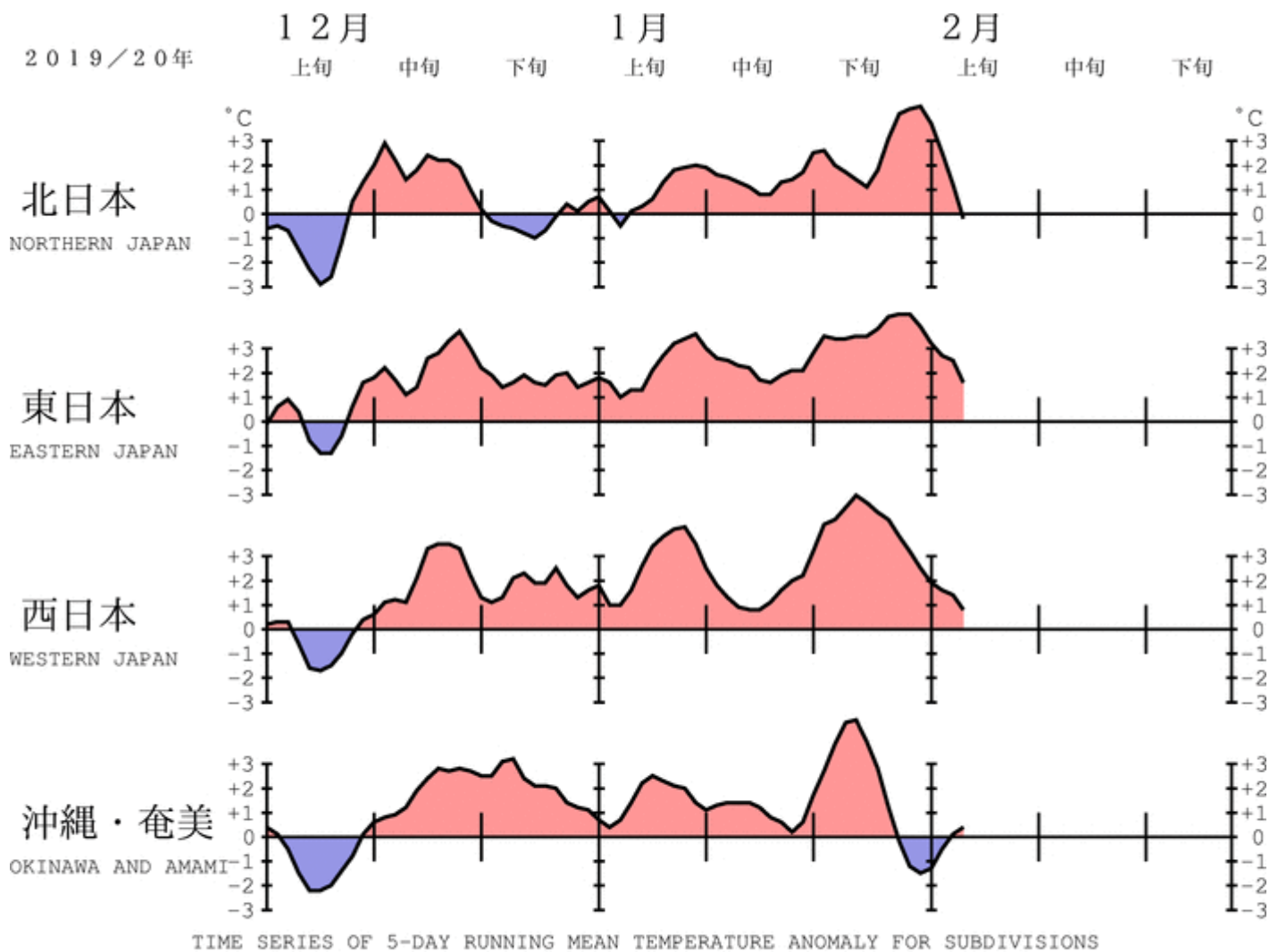
冬は寒気の南下が弱かった



- 上空の偏西風は平年より北を流れ、寒気の流れ込みが弱く、暖かい空気に覆われやすかった

2019年冬の大気の流れの模式図(西日本)

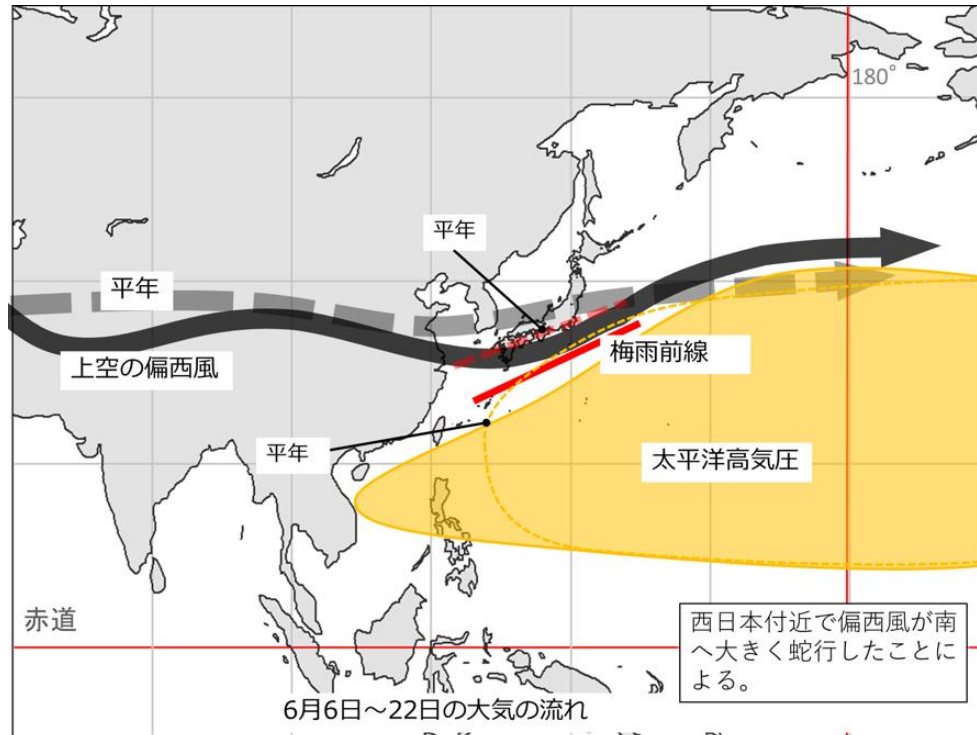
(参考)2020年1月は記録的な高温



地域平均気温平年差の5日移動平均時系列

更新日：2020年2月7日

梅雨前線の北上が遅れた

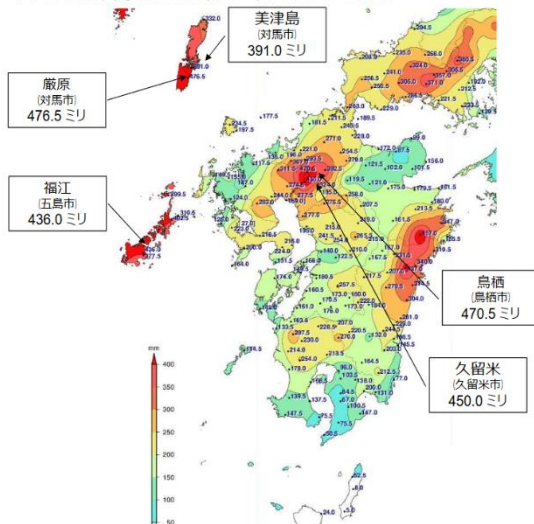


2019年6月6日～22日の大気の流れ
(7月上旬も同様の状況)

- 上空の偏西風は平年より南を流れた(エルニーニョ現象が関連していた可能性がある)
- 太平洋高気圧の北への張り出しが弱く、梅雨前線の北上が遅れた

夏に「大雨特別警報」を2回発表

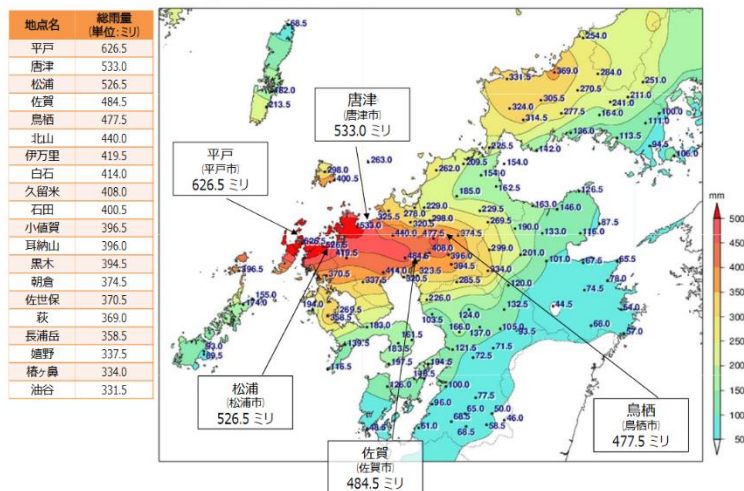
アメダス総降水量の分布図（7月18日～22日）



地点名	総雨量 (ミリ)
厳原	476.5
鳥栖	470.5
宇目	457.0
久留米	450.0
北方	437.0
福江	436.0
有川	402.5
小値賀	399.5
朝倉	392.5
美津島	391.0
羅漢山	380.5
上大津	377.5
和田	371.0
鹿野	357.0
佐伯	347.0
延岡	340.0
鰐浦	332.0
篠生	324.0
耳納山	324.0
日向	314.5

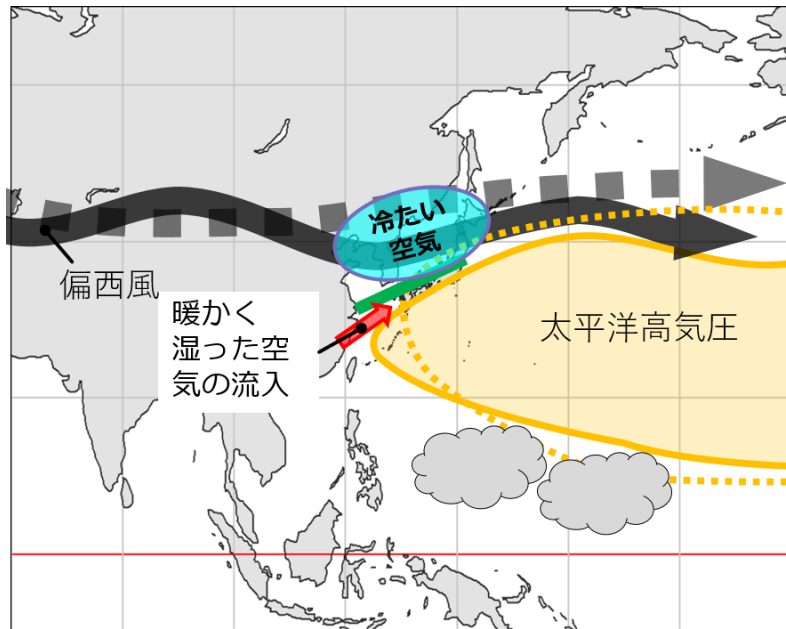
- 令和元年7月20日
長崎県の五島と対馬に
「大雨特別警報」を発表

アメダス総降水量の分布図（8月26日～30日）



- 令和元年8月28日
佐賀県、福岡県及び
長崎県に「大雨特別警報」を発表

湿った空気が流れ込みやすかった



点線は平年

2019年8月下旬の大気の流れ

- 上空の偏西風は朝鮮半島付近で平年より南側を流れ、日本付近には冷たい空気が流れ込んでいた
- 日本付近は太平洋高気圧の周囲を回る湿った空気が流れ込みやすかったことや前線が顕在化し、活動が活発な状態になっていた

終わりに(URLの紹介)

- 福岡管区気象台、沖縄気象台のホームページに「2019年の天候」をまとめた資料を掲載していますので、ご参照ください。

福岡管区気象台(九州北部地方)

https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/gyomu/oshirase/houdou_20200106.pdf

沖縄気象台(沖縄地方)

<https://www.jma-net.go.jp/okinawa/data/tenkou/2019/tenkou2019.pdf>